

■三上章 言語学者。日本語文法の本質を明らかにするも、学界から無視され、精神に異常をきたして没した。

みかみあきら
日比谷公園・1903＝ 広島県高田郡甲立村で、毛利氏に敗れた尼子氏が帰農しその後造酒業を始めた三上家の婿養子で播州出身の(神吉)頼三の長男に生まれる。本名彰。姉1人・第3人・妹3人兄弟に育つ。大叔父に数学者三上義夫。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

韓国反日暴動1907＝ 4歳：この頃、まったくの独学で字を覚える。

伊藤博文暗殺1909＝ 6歳：甲立尋常小学校に入学。
韓国併合・・・1910＝ 7歳：この頃、病を得て自宅で療養するが、活発な少年で、学校の裏を流れている大川でよく泳いだ。

明治天皇没・1912＝ 9歳：大正政変・・・1913＝10歳：広島で催された共進会に絵と書が出品展示され、新聞で‘三上彰のが秀逸’と誉められる。

21ヶ条要求・1915＝12歳：県立三次中学校に入学。三上家が田地を売って、広島に転居したため、広島高等師範附属中学校へ転校。

サッカー・テニス・スケートと、スポーツを通じてしだいに体力をつける。

ペルシ条約・1919＝16歳：この頃、毎日、高等師範の図書館に通い、九時まで読書に耽る。
大暴落・・・1920＝17歳：山口高等学校に首席で合格。入学式で宣誓文の文章を変えながら読み、学校側を慌てさせ、まもなく自主退学。広島に帰って、読書三昧の生活を送る。

原敬首相暗殺1921＝18歳：京都の第三高等学校理科甲類に入学。下宿。同級の今西錦司・一級下の桑原武夫と生涯親交。数学の試験で、アルファベットを使うのは日本人としておかしいと、既知数イロハと書き換えて教師を混乱させる。

水平社結成・1922＝19歳：この頃、英国人にピアノを習う。音楽は生涯の友となり、後年、数学とともに音楽を教えるようになる。来日したロシアのバレリーナ、アンナ・パブロワの公演を観て感動する。

護憲三派圧勝1924＝21歳：前年の関東大震災で多くの家屋が倒壊を理由に、叔父の三上義夫に勧められ、東京大学工学部建築科を受験し合格。広島出身の男子学生寮修道館に入り、叔父の家に泊っては、その妻タケの弾くオルガンの音色で目を覚ますことに至福を感じた。広く東西の芸術を涉猟し、夏休みには毎年広島に帰省。

金融恐慌・・・1927＝24歳：卒業し、台北の台湾総督府営繕課に技手として就職するが、仕事は退屈で、
世界恐慌・・・1929＝26歳：辞職、帰郷して、_身の振り方を模索しながら読書と思索に耽る。
海軍軍縮条約1930＝27歳：雑誌{思想}に、初の評論「批評は何処へ行く?」を投稿して入選し、掲載される。英訳のゴーゴリ「狂人日記」を読み、“私が”は主語ではなく補語だ直観、文法研究の出発点となる。朝鮮に渡り、羅南中学校に数学教師として就職、仕事も楽しく、趣味にいそしむ。

満州事変・・・1931＝28歳：帝人疑獄事件1934＝31歳：中学時代の恩師の勧めで、光州高等普通学校に転任し、数学担当。朝鮮人に対する差別に胸を痛める。
芥川直木賞始1935＝32歳：辞任して帰郷し、広島修道中学校講師となる。夜間部で音楽と数学を担当。
日中戦争始・1937＝34歳：健保+総動員 1938＝35歳：和歌山県立粉河中学校に教諭として就職。
第二次大戦始1939＝36歳：大阪府立八尾中学校へ転任。
大政翼賛会・1940＝37歳：_初の著書「技芸は難く」を自費出版し、批評常識を批判する冒頭宣言。吉田健一から激励の手紙で、雑誌{批評}への連載を依頼され、論文「ヂオスクロイ」を執筆、掲載されるも、打ち切りを通告され、ショックで文芸批評の道を断念。

日米開戦・・・1941＝38歳：大阪の布施に家を借り、母と妹を呼び寄せて、ともに暮す。_佐久間鼎の「日本語の特質」を読んで感動し、日本語文法の道に進むことを決意。野尻湖へ旅行後、契沖旧庵の円珠庵に詣で、佐久間に入門請う手紙。
・・・1942＝39歳：上阪した佐久間と会い、生涯にわたる師弟関係が始まる。*初の文法論文「語法研究への一提試」が雑誌{コトバ}に掲載されたのを皮切りに、翌年にかけて、10本の論文を発表するも、国語学界から反応はなく落胆。

創価学会検挙1943＝40歳：この年、末弟がフィリピンで戦死。
年金+総武装 1944＝41歳：父が死去。_精神的スランプが始まり、論文が書けなくなる。
敗戦・・・1945＝42歳：極東裁判決・1948＝45歳：新学制により、職場が八尾中学校から八尾高等女学校へと変わる。
三大事件・・・1949＝46歳：さらに、山本高等学校と改称される。この年、叔父義夫が東北大学より理学博士号を授与される。
朝鮮戦争始・1950＝47歳：夏休みに帰郷し、叔父義夫との最後の対面で‘後をよろしく頼む’と言われ、この年、叔父義夫は死去。
独立回復・・・1951＝48歳：_金田一春彦を訪ね、激励され、文法書の出版を勧められる。
マーチン事件・1952＝49歳：_スランプを脱し、研究論文執筆を再開。
テレビ放送始・1953＝50歳：阪大病院に入院し胃潰瘍を手術。_最初の文法書「現代語法序説～シンタクスの試み」を出版。日本読書新聞の金田一の書評で‘大正末に出た松下文典を思わせる’と書かれる。

自衛隊発足・1954＝51歳：阪大病院に再入院し胃ヘルニアの手術しながら、_前年来、10本の論文を発表。
55年体制始・1955＝52歳：帰郷して三上家の墓の荒廃に驚く。_「現代語法新説」を刊行。佐久間から博士論文の執筆を勧められる。
国連加盟・・・1956＝53歳：母が入浴中に脳溢血で倒れ、死去。妹と二人の生活が始まる。国学院大学で研究発表。
なべ底不況・1957＝54歳：この年、長姉が死去。*金田一が刊行し、ロングセラーとなる岩波新書「日本語」で、「現代語法序説」が紹介され、名前が広く知られるようになる。

美智子妃・・・1959＝56歳：_「現代語法序説」を書直して刊行。東洋大学に提出予定の博士論文の執筆にはげむ。指導教授は佐久間鼎。
安保闘争・・・1960＝57歳：*ローマ字運動を通じて、くろしお出版社長の岡野篤信と知り合う。提出した博士論文「構文の研究」が受理され、文学博士の学位を受けるも“就職用”と照れる。くろしお出版より「象は鼻が長い」を刊行し、序を書いた佐久間から“優人ミカミ”と称される。

タイタイ病始・1961＝58歳：山本高等学校を辞職し、武庫川女子大学講師となる。
全国総合計画1962＝59歳：武庫川女子大学講師を辞職し、八尾高校の非常勤講師となる。
TV宇宙中継始1963＝60歳：くろしお出版から「日本語の論理～ハとガ～」、「文法教育の革新～ごまかさない文法指導」「日本語の構文」と相次いで出版し、林大の招待でICU(国際基督教大学)で文法講演するが、神経が立った状態となって、パニックに陥り、坂本病院精神科に入院。翌年初めまでを病室で寂しく過ごす。

大学紛争始・1965＝62歳：_新設の大谷女子大学の国文学科教授に就任。高時代以来の友人桑原武夫に喜びを伝えるが、
いざなぎ景気1966＝63歳：_ハーバード大学言語学助教授久野暉に招聘されて渡米、ボストンのアパートに落ち着くも、ストレスと不眠症からふたたびパニックに陥り、直ぐに帰国。最後の著作「文法小論集」をくろしお出版から刊行。
大阪万博・・・1970＝67歳：_八尾市立病院に入院。岡野篤信に無念さを訴える葉書を出し、最後の論文「主格の優位」が発表された直後、没した。

ド・ショック・・・1971＝68歳：